

三木市創生計画策定検証委員会 資料・データ集

目 次

1	三木市の概要	・・・	1～	2
2	三木市の分析	現状・課題と対策（分野別）		
	(1) 経済	・・・	3～	6
	(2) 就業状況	・・・	7～	8
	(3) 金物産業	・・・	9～	11
	(4) 農業	・・・	12～	14
	(5) 観光	・・・	15～	17



1 三木市の概要

～高速交通網の要衝の地（大阪から60分）～

三木市は兵庫県の南東部。神戸市の北西に隣接し阪神間のベッドタウンとして発展してきた。また、京阪神方面と中国・四国、日本海方面を結ぶ高速道路網の結節点となっている。

位置図



まちの特徴

「三木金物」

世界に誇る高度な鍛造技術に支えられた「播州三木打刃物」の大工道具。
(国の「伝統的工芸品」)

「大規模公園」

- ・グリーンピア三木
- ・三木総合防災公園
(防災科学技術研究所 実大三次元震動破壊実験施設が所在)
- ・三木ホースランドパーク

「有名ゴルフ場」

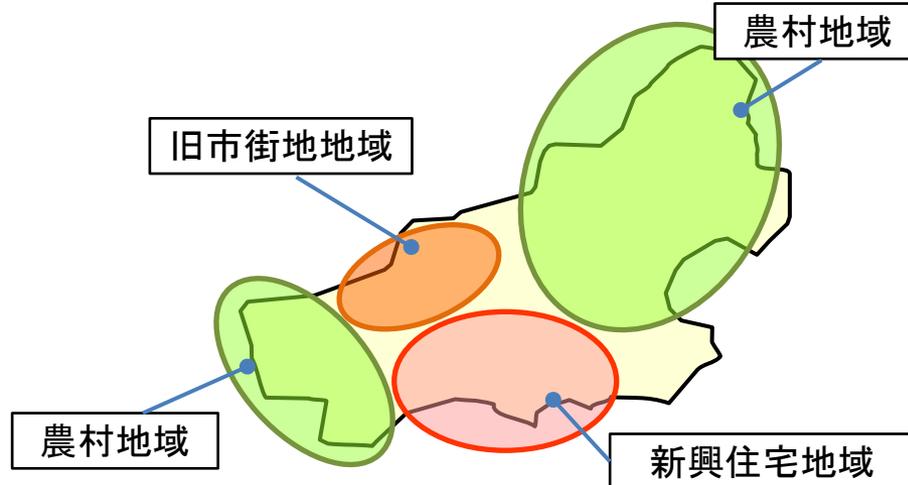
廣野ゴルフ倶楽部をはじめ、ゴルフ場の数が市内25コース
(箇所数西日本一)

酒米「山田錦」

高級日本酒の醸造に欠かせない「山田錦」
(品質出荷量とも日本一)

○三木市は、旧市街地、新興住宅地、農村地域など3つの顔がある。

■人口	79,479 人
■面積	176.51 km ²
■世帯数	32,658 世帯
■高齢者数	23,943 人
■高齢化率	30.1 %
■公民館数	10 館
■まちづくり協議会数	10 団体
■自治会数	193 自治会
(H27.3.31時点)	



区 分	H 1 7 年国調	H 2 2 年国調	27.3.31現在 住基台帳
(増減率*) 人 口	(△2.0%) 84,361人	(△4.0%) 81,009人	(△1.9%) 79,479人
(増減率*) 世帯数	(4.2%) 27,646世帯	(3.0%) 28,506世帯	(14.5%) 32,658世帯
(22国調) 産業別 就業人口	第1次産業	1,191人	(3.3%)
	第2次産業	10,948人	(30.4%)
	第3次産業	23,893人	(66.3%)
	総数	36,032人	(100.0%)



*増減率は前回の国調と比べた比率

2-(1) 三木市の経済



まちを成長に導くためには、働く場としての産業や商店街の活性化が重要。
特に市内企業の99%以上が中小企業であることから、その経営基盤の強化によって、収入をアップするとともに、商店街の活性化などを推進していかなければならない。

現状

- 市内総生産額は、平成26年度発表の額は2,550億円。平成25年度から市独自の住宅リフォーム助成や設備投資促進補助などの取組により、平成24年度比で160億円増加。

(6.7%アップ)

- 市内企業の99.9%が中小企業。

- 商店街の衰退

店舗数の減少、空き店舗数の増加、

駐車場の不足

〔店舗数の推移：A商店街△50店舗/13年間〕
〔B商店街△24店舗/13年間〕

課題

工業に関しては

- ①中小企業の技術開発、経営基盤の強化
- ②時代に応じた新規事業者企業の確保
- ③時代に応じた新規事業者企業の確保

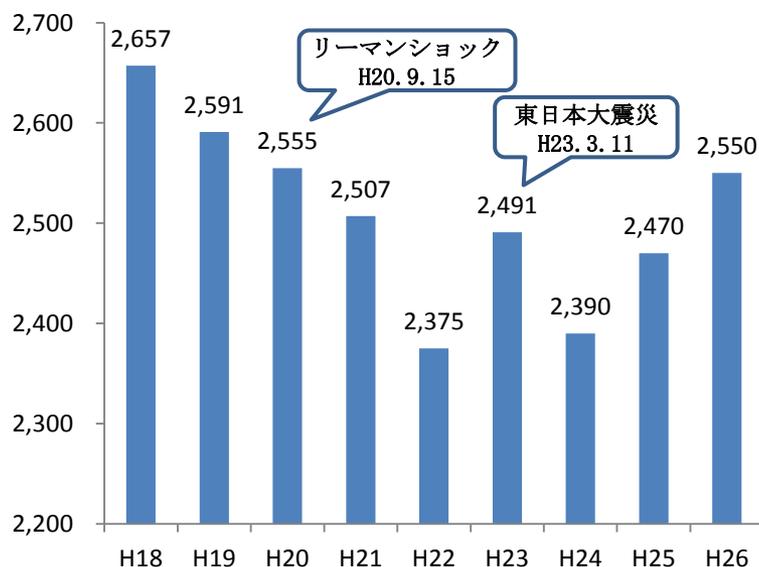
商業に関しては

- ・後継者不足。
- ・少子高齢化や人口減に伴うマーケットの減少。
- ・新たな地域コミュニティとしての商店街の活性化。

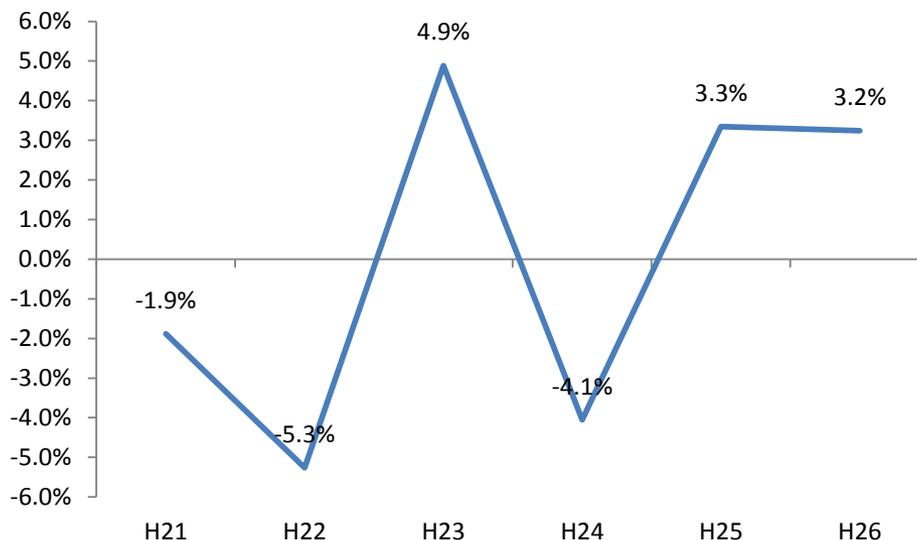
経済の現状分析

平成26年度の市内総生産額は、平成18年度と比べて約100億円減少しているが、平成25年度と比べてヤクルトの西日本本社工場やB Rサーティーワンアイスクリーム社の西日本工場、シアトルに本社を置くコストコホールセールの西日本最大の流通拠点などの誘致により80億円増加している。

1-1 市内総生産額の推移（単位：億円）



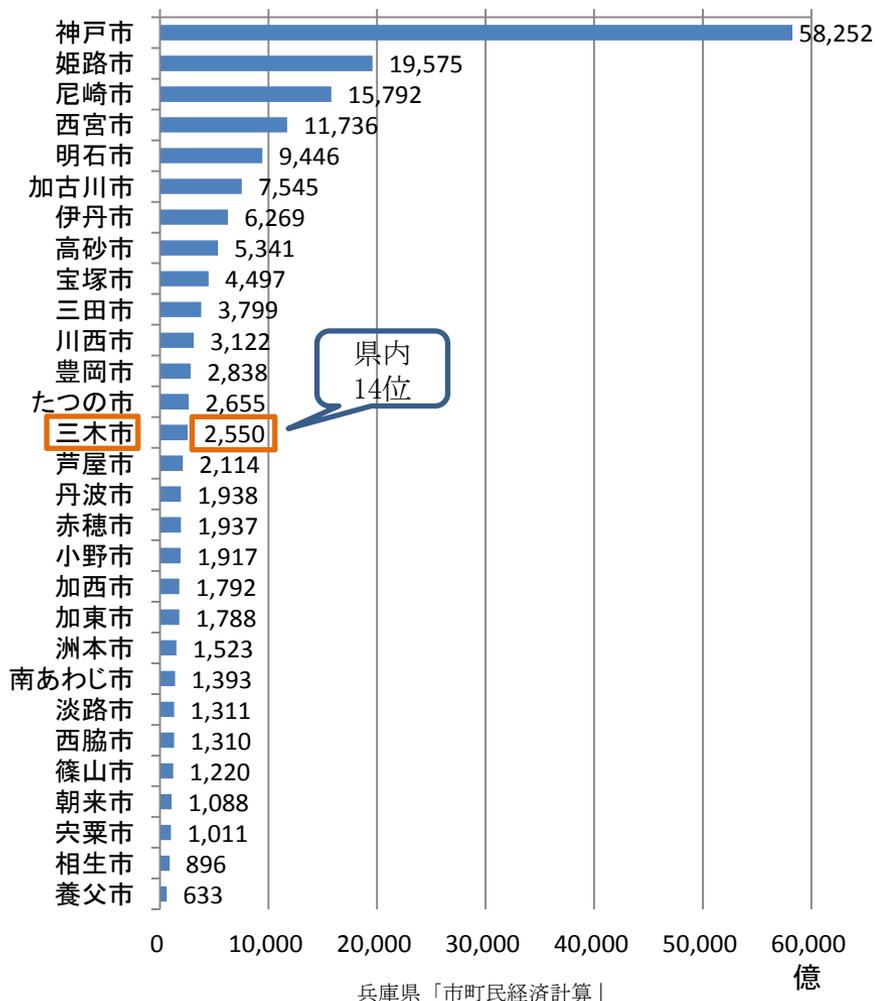
1-2 三木市の経済成長率



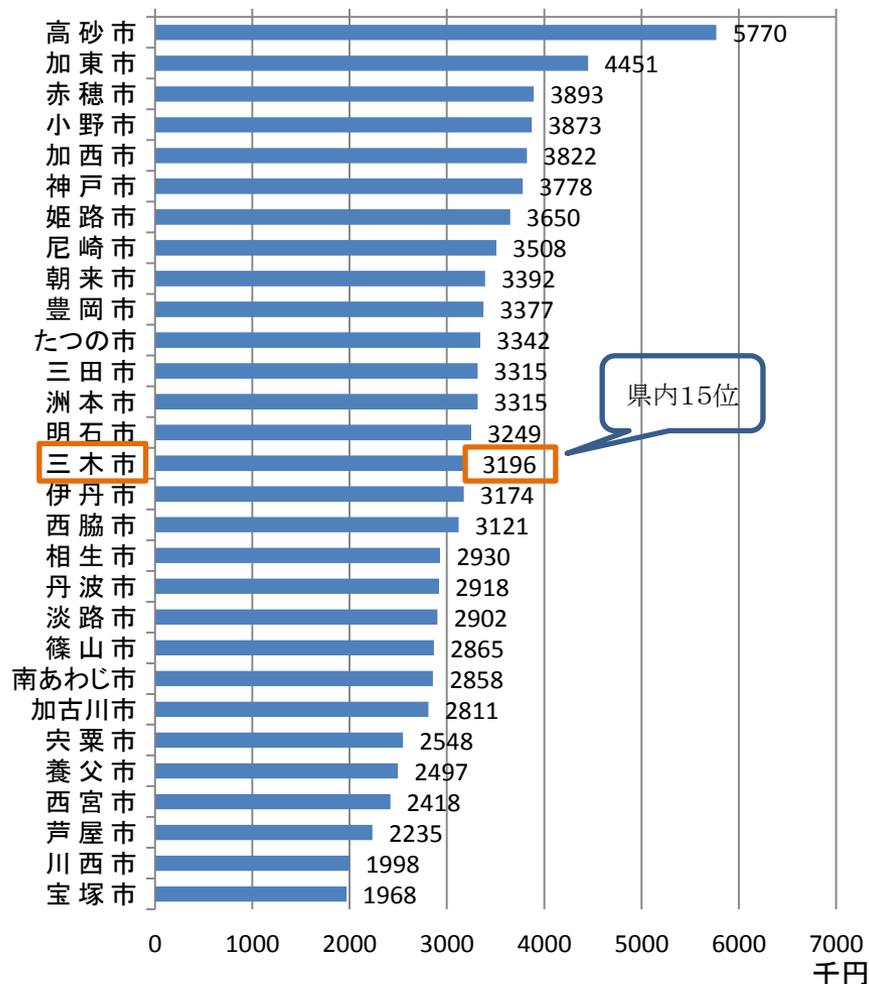
市内総生産額は各年度において県が公表する最新の数値を計上

市内総生産額（名目）は県内で14番目、人口一人当たりの市内総生産額は県内15番目であり、三木市を含む北播磨地域では、市内総生産額では1番であるが、一人当たりの額になると加東市、小野市、加西市に次いで4番目になる。

1-3 市内総生産額(名目)の比較 (県内29市)(平成25年度)

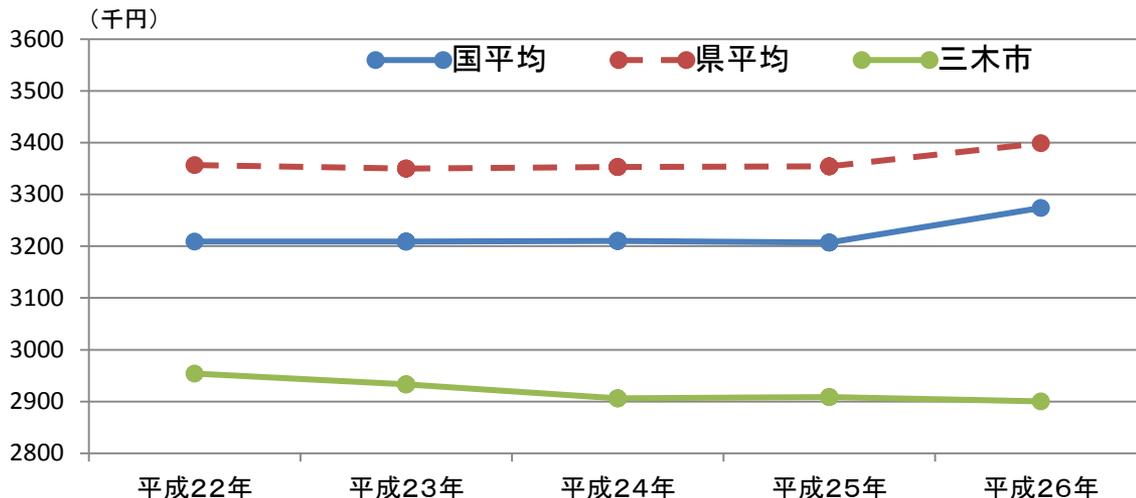


1-4 人口一人当たりの市内総生産額 (名目)の比較(県内29市)(平成25年度)

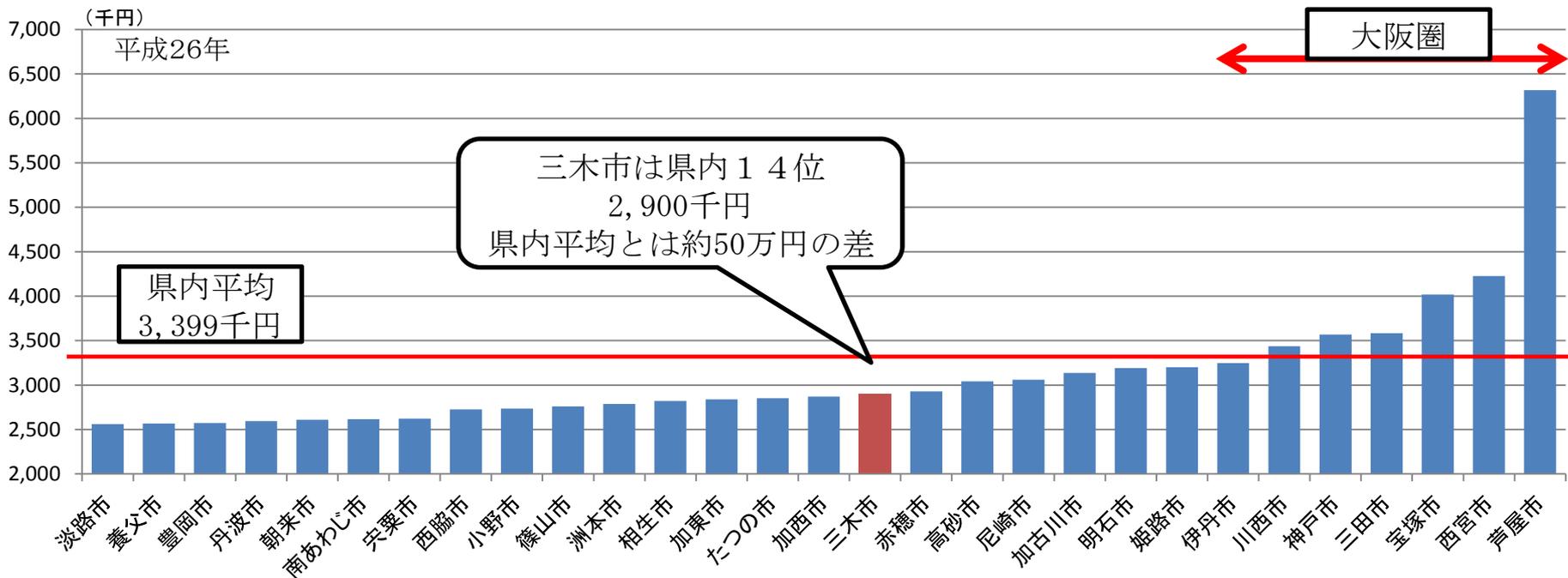


三木市の年間平均所得は、国平均や県平均と比べて30～50万円低い状況にある。
 また、年々三木市は減少の一途をたどっている。（5年間で5万円減少）
 一方、国・県においては平成26年に大きく上昇している。

1-5 一人当たりの年間平均所得の推移 (H22～H26)



1-6 一人当たりの平均所得の他市比較



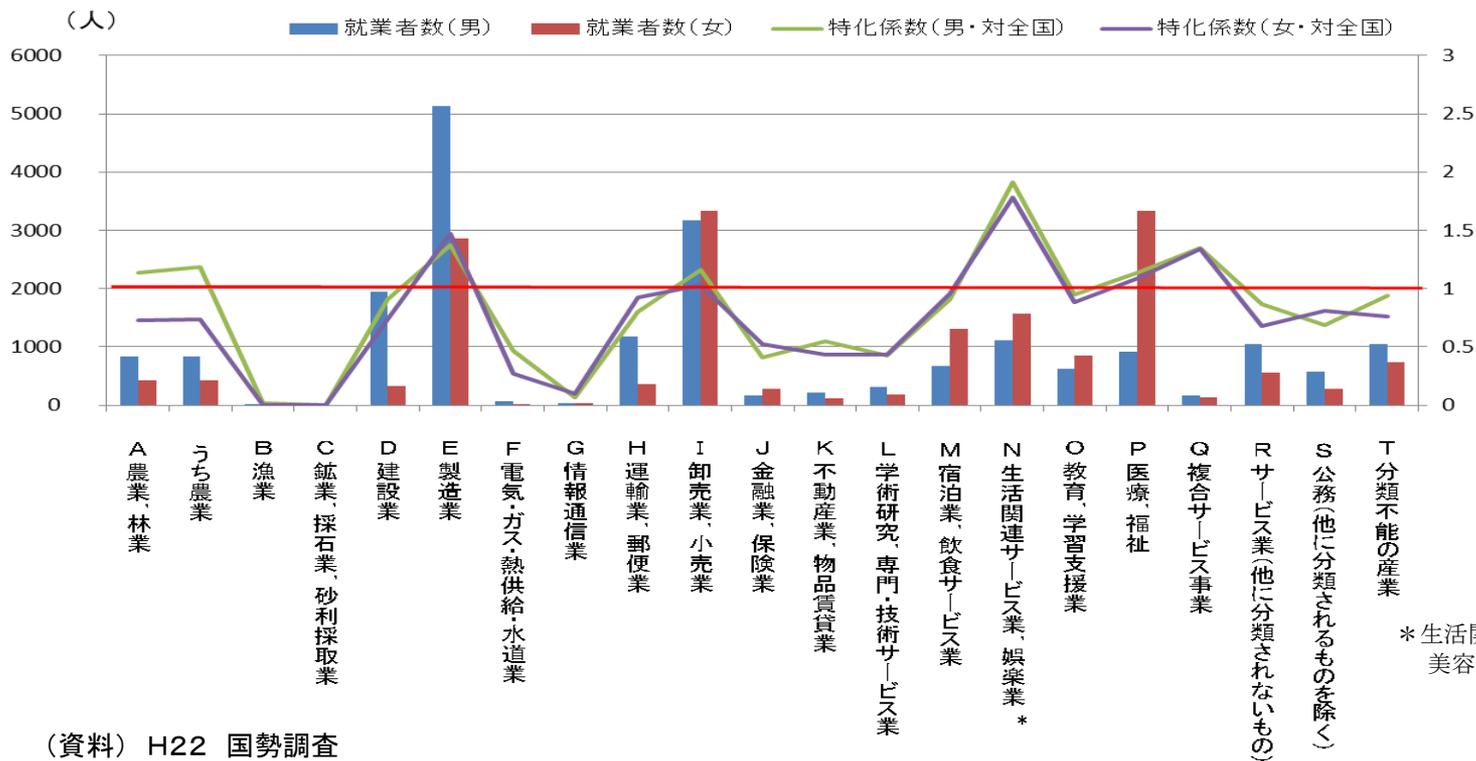
2-(2) 三木市の就業状況①



三木市の就業状況は、製造業従事者が最も多い。男性は製造業、卸売業・小売業、建設業の順。女性は卸売業・小売業、医療・福祉、製造業の順となっている。

また、生活関連サービスに従事する者の構成が全国と比べて高く、次に製造業、複合サービス業となっている。

三木市 産業別・男女別就業者数



従業地における 15歳以上就業者数	
総数	35888
男	19204
女	16684

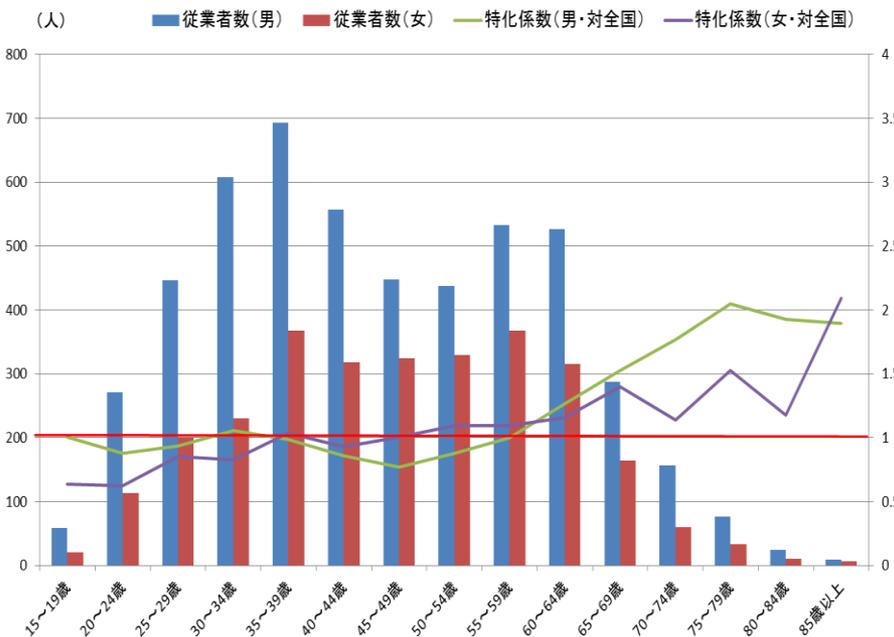
*生活関連サービス業、娯楽業
美容業・旅行業・スポーツ施設・ゴルフ場など

三木市の就業状況②

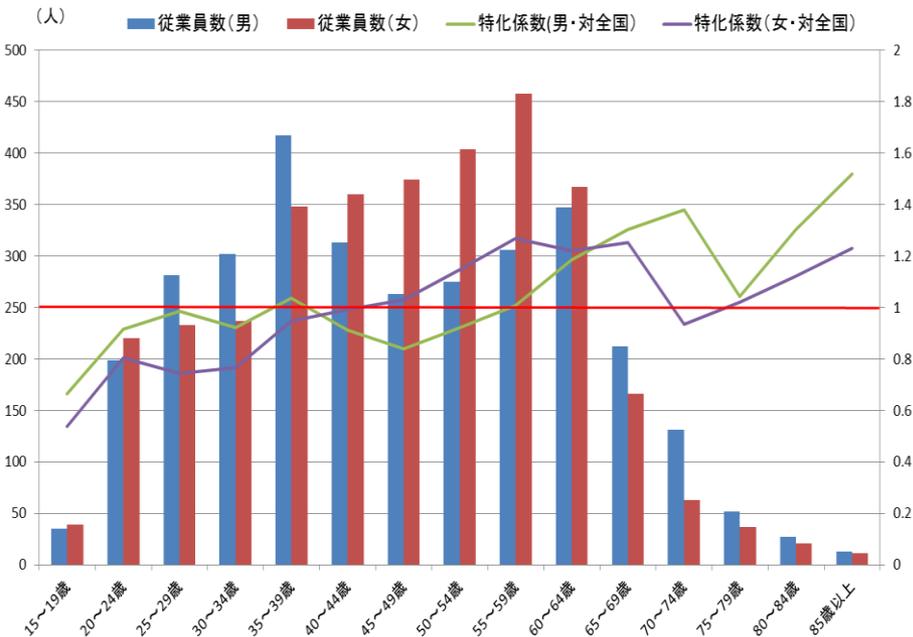
就業者数の多い製造業と卸売業・小売業の年齢別の就業状況をみると、男性は製造業、卸売業・小売業ともに30代後半にピークがあるが、50代後半～60代前半の構成も高いため、40代前半～50代前半の男性就業者数の少なさが目立っている。

製造業の女性でも30代後半と50代後半にピークがあるが、その間の減少は男性のように大きくない。卸売業・小売業では50代後半をピークに概ね山なりとなっている。

男女別年齢別就業者数(製造)



男女別年齢別就業者数(卸売業・小売業)



(資料) H22 国勢調査

2-(3) 三木市の金物産業



1500年代からの歴史がある金物のまち三木。
伝統に培われた優れた技術を活かした三木金物の品質、性能の高さを活かし時代を先取りした新たな金物産業を創出し、次世代に引き継ぎ、三木の活性化の鍵となる取組が必要。

現状



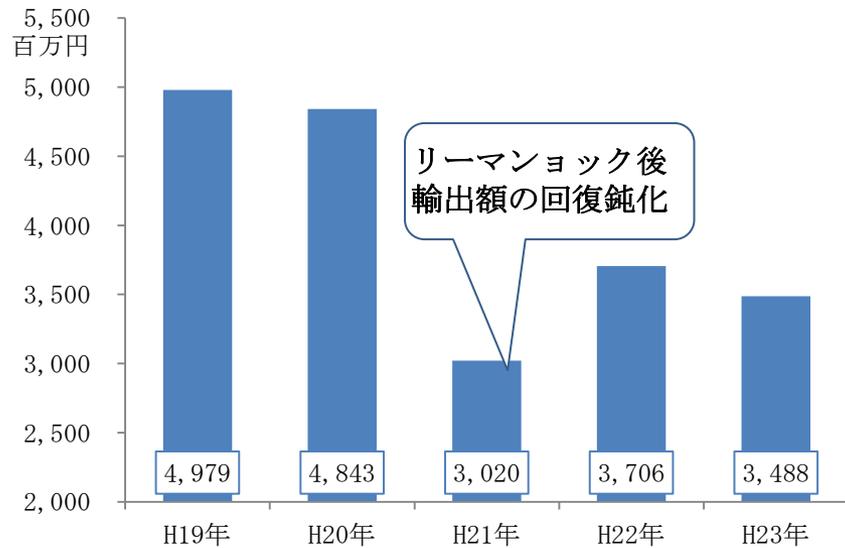
- 三木金物：鋸（のこぎり）、鑿（のみ）、鉋（かんな）、鋺（こて）、小刀（こがたな）の5品目が国の伝統的工芸品に指定。
- 建築手法が変わってきた。
- 三木金物製品の出荷額は、三木市全体の工業製品出荷額の約21%を占める。
- 金物関連製造事業者数は昭和51年当時から6割減少。従業員は4割減少。
- 三木金物の輸出先は、欧州と米国、東南アジアで80%以上、輸入先は中国、台湾で90%以上。
市場として海外情勢に大きく依存している状態。

課題

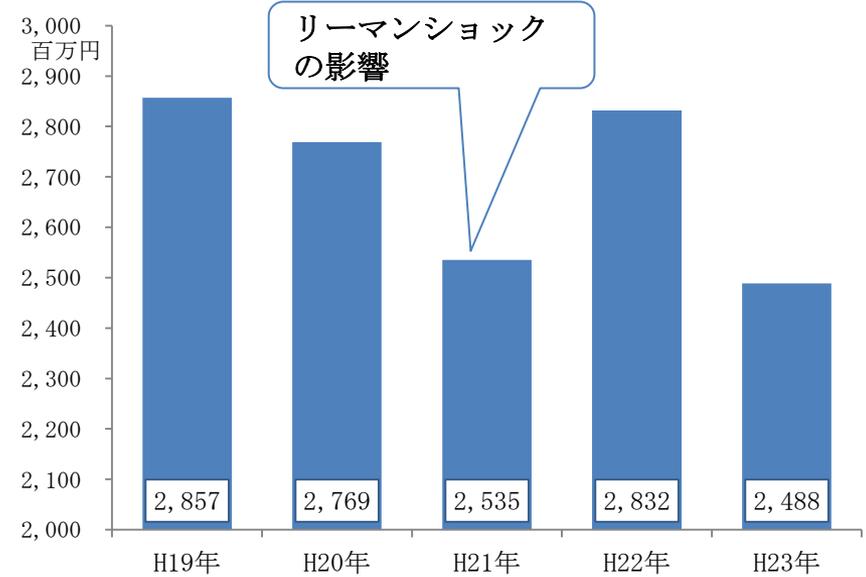
- 大工道具にこだわらず製造技術を活かし売れる商品への転向
- 新商品の開発やデザインをサポートする研究・開発システムの構築（新たな市場の開拓）
- 情報戦略の不足
三木の誇る宝を効果的に発信できていない。
- 後継者、担い手不足
金物製造事業者は小規模な家内工業が多い。
- 海外からの輸入・輸出に依存しており、国際情勢の影響を受けやすい。

金物産業の現状分析

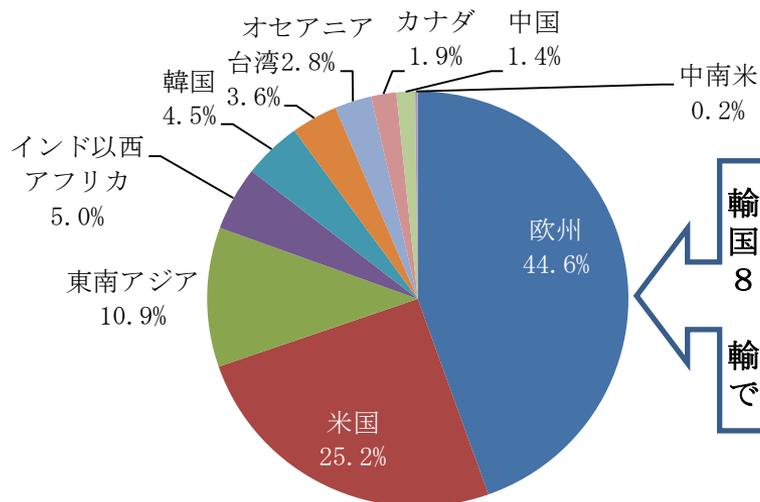
3-1 三木金物輸出額の推移 (H19~H23)



3-2 金物等輸入額の推移 (H19~H23)

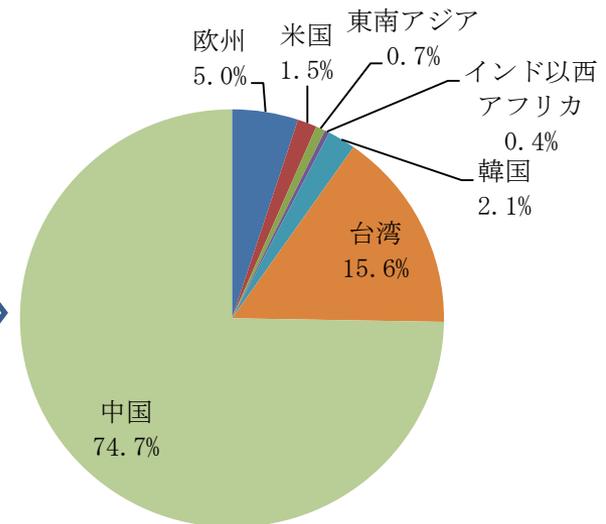


3-3 三木金物の輸出先 (H23年)

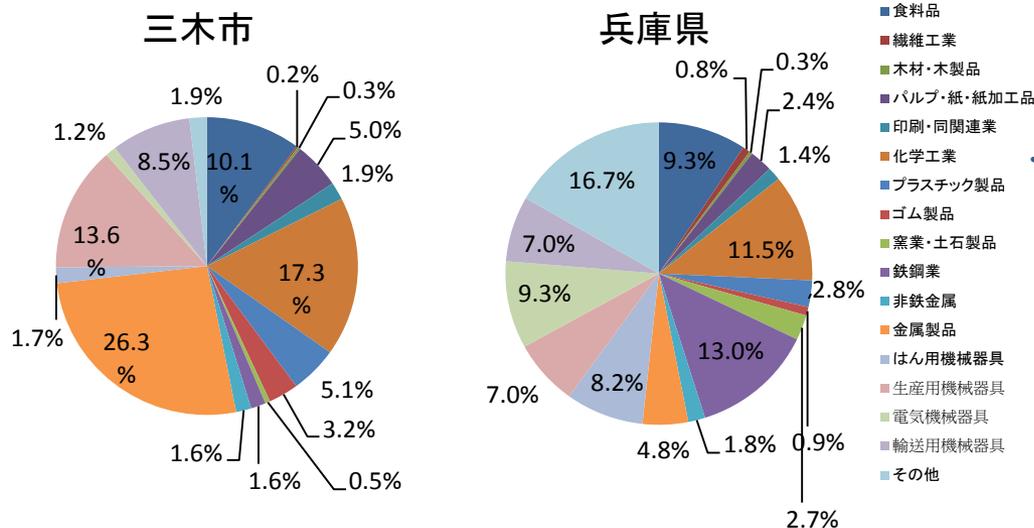


3-4 三木金物の輸入先 (H23年)

輸出は、欧州と米国、東南アジアで80%以上
 輸入は中国、台湾で90%以上



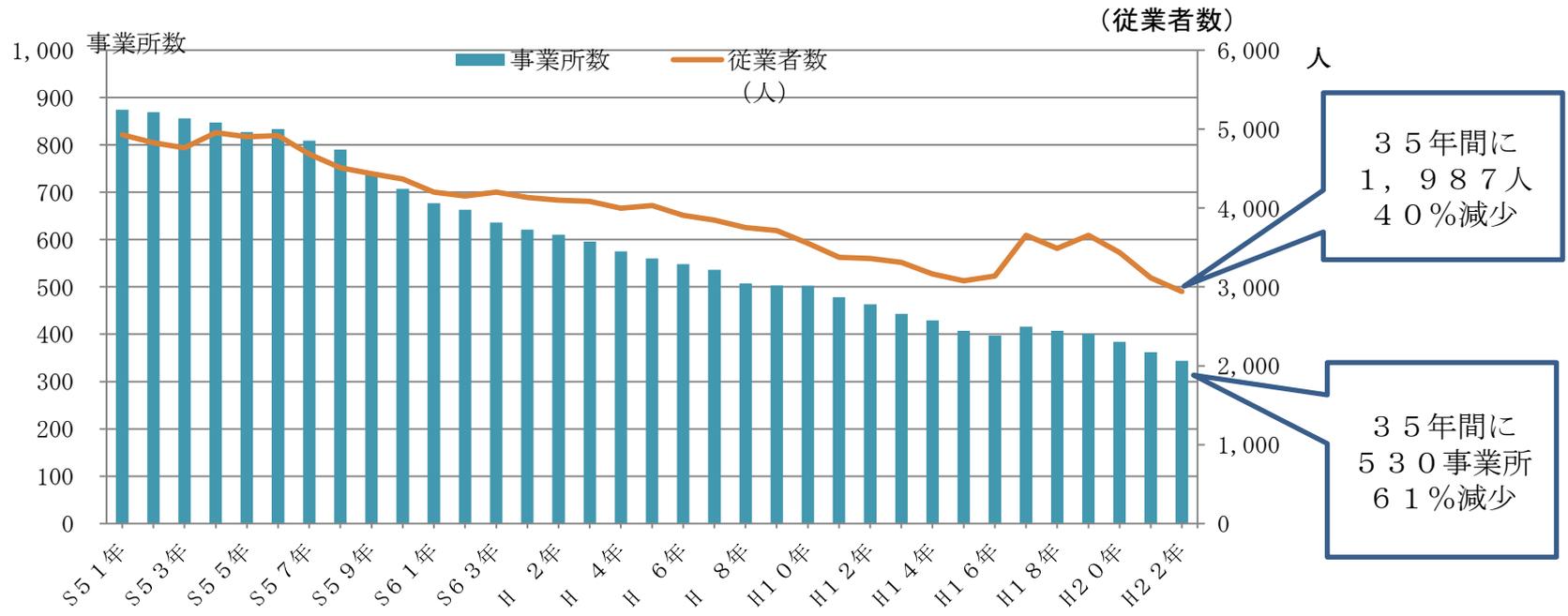
3-5 県との産業分類別製造品出荷額の構成比較



三木市の特徴は、県と比較し、
金属製品と生産用機械器具が多い



3-6 金物関連製造事業所数、従業者数の推移



2-(4) 三木市の農業



三木市は質・量ともに日本一の酒米「山田錦」の主要産地であり、近年の海外での和食や日本酒ブームにより山田錦の需要が増えている。また、市内各所の直売所で野菜などの売上が伸びている。

一方で、農業従事者の高齢化、後継者不足が深刻な状況となっている。

そこで、農業従事者の所得アップや後継者・担い手の育成につなげて行く新たな取組が必要。

現状

・酒米山田錦は質・量ともに日本一
(H26 5,440t 国の18.4%)
(市内の口吉川、吉川地域は特A地区)

・市内各所の直売所が売り上げ好調(H26)

山田錦の館	4億2千万円
三木みらい館	2億4千万円

(加工品の売上を含む)

・農業従事者数は減少傾向で、高齢化が進んでいる。

・市内作付面積の74%が水稻、農業従事者の約60%が第2種兼業農家

・いちご、黒大豆の生産拡大が図れ、いちご狩りなどの観光へ繋がってきている。

課題

・農業従事者の高齢化が進み、後継者が不足する中で、新たな担い手の育成、営農の組織化が進んでいない。

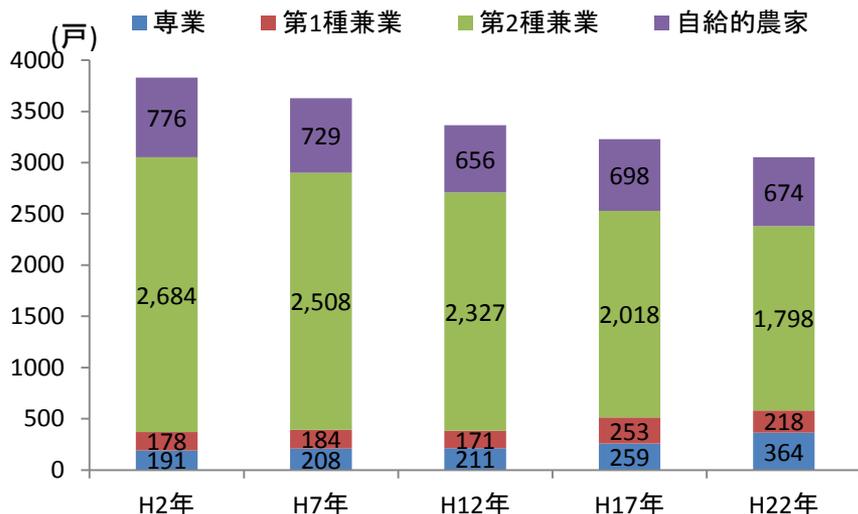
・山田錦に頼る傾向が強く、海外での日本酒ブームの沈静化による生産減への影響が懸念される。

・どの作物も生産出荷に留まり、農産物を活用した商品化としての6次産業化への取組が少ない。

・国内にとどまらず、海外も視野に入れた販路開拓

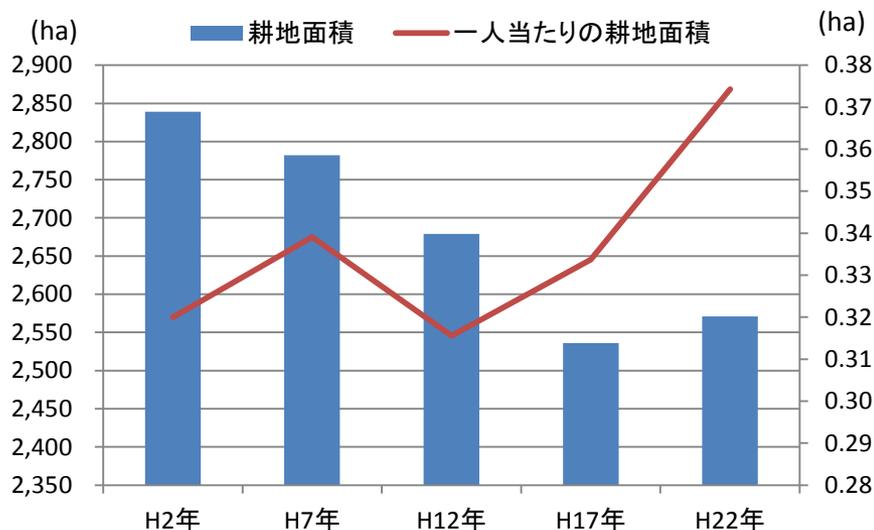
農業の現状分析

4-1 農家数（専業、兼業）の推移（H2～H22）

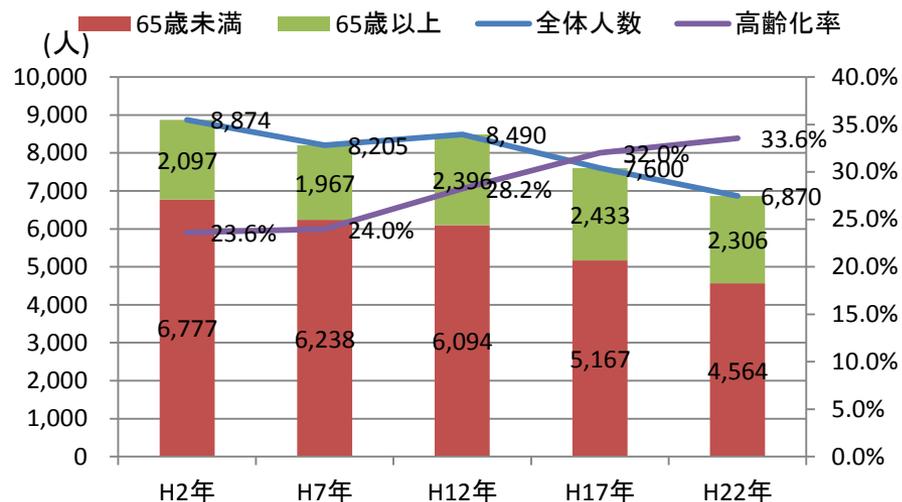


自給的農家・・・経営耕地30a未満かつ農産物販売額50万円未満、
販売農家・・・経営耕地30a以上又は農産物販売額50万円以上
第一種兼業農家・・・農業所得が主、第二種兼業農家・・・農業所得が従

4-3 耕地面積の推移

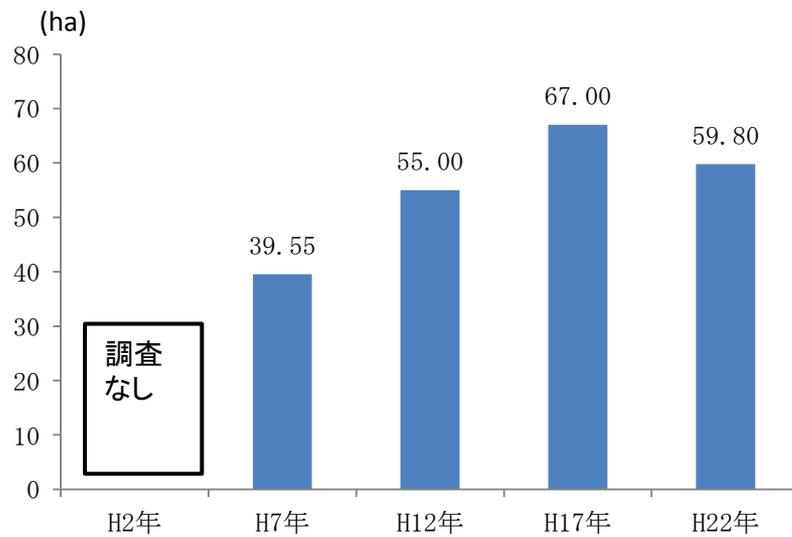


4-2 農業従事者数の推移（H2～H22）



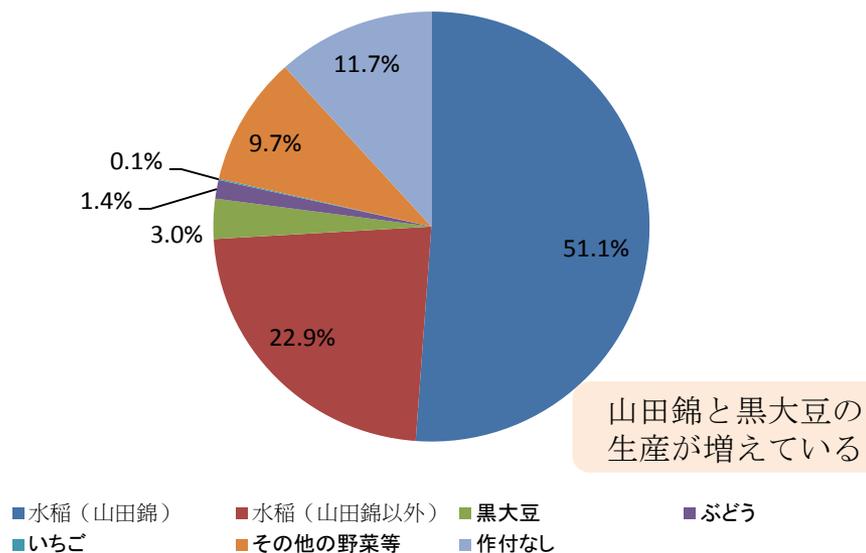
農業の担い手の減少により、
耕作地が専業農家に集約される傾向にある

4-4 耕作放棄地面積の推移

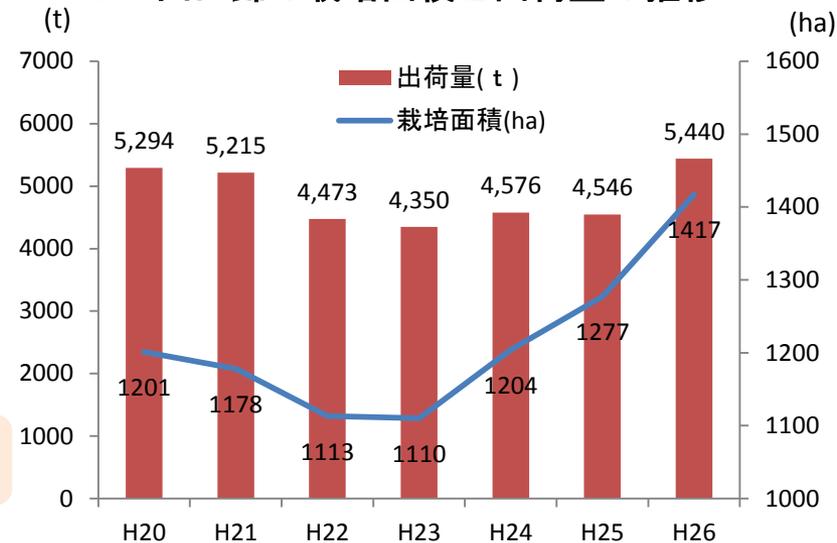


(資料)H22 農業センサス

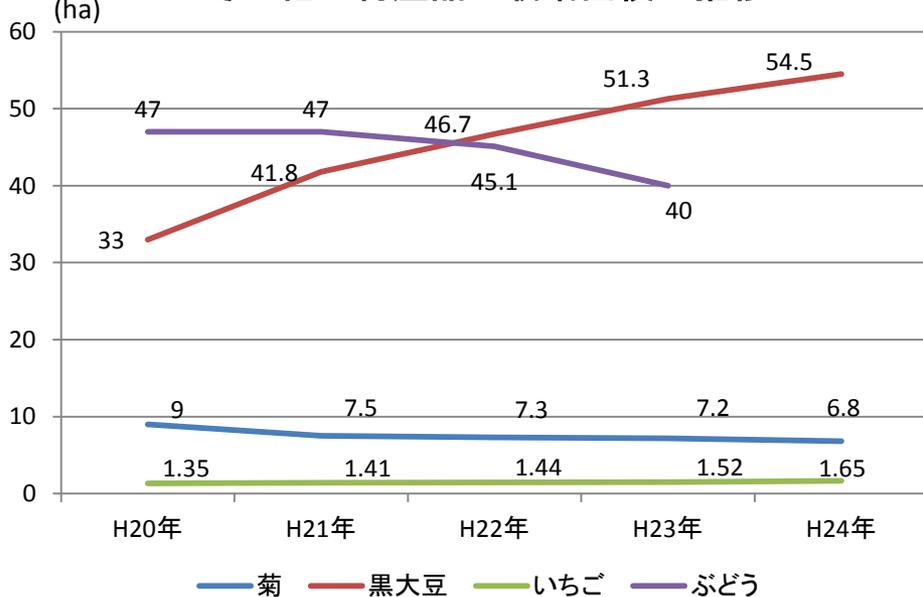
4-5 主要作物の作付面積の比較 (H26)



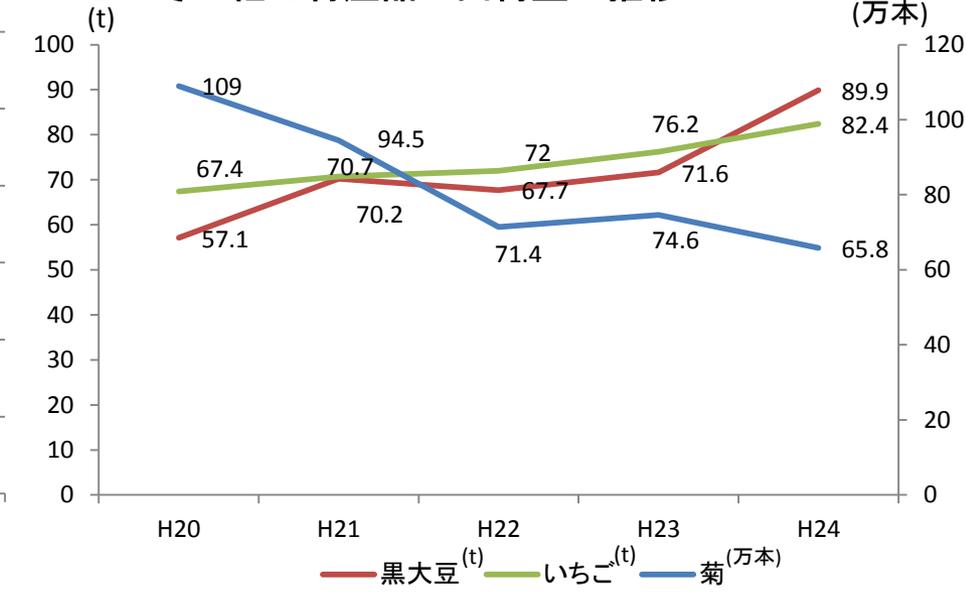
4-6 山田錦の栽培面積と出荷量の推移



4-7 その他の特産品 栽培面積の推移



4-8 その他の特産品 出荷量の推移



2-(5) 三木市の観光

三木市は、高速道路網の結節点であり神戸・大阪から車で1時間以内と利便性が高く、観光入込客数は人口当たり県内3位と高い。ゴルフ場・スポーツ施設・史跡など様々な観光資源があるが、ネットワークができておらず、戦略的なPRも不足している。

現状(平成24年)

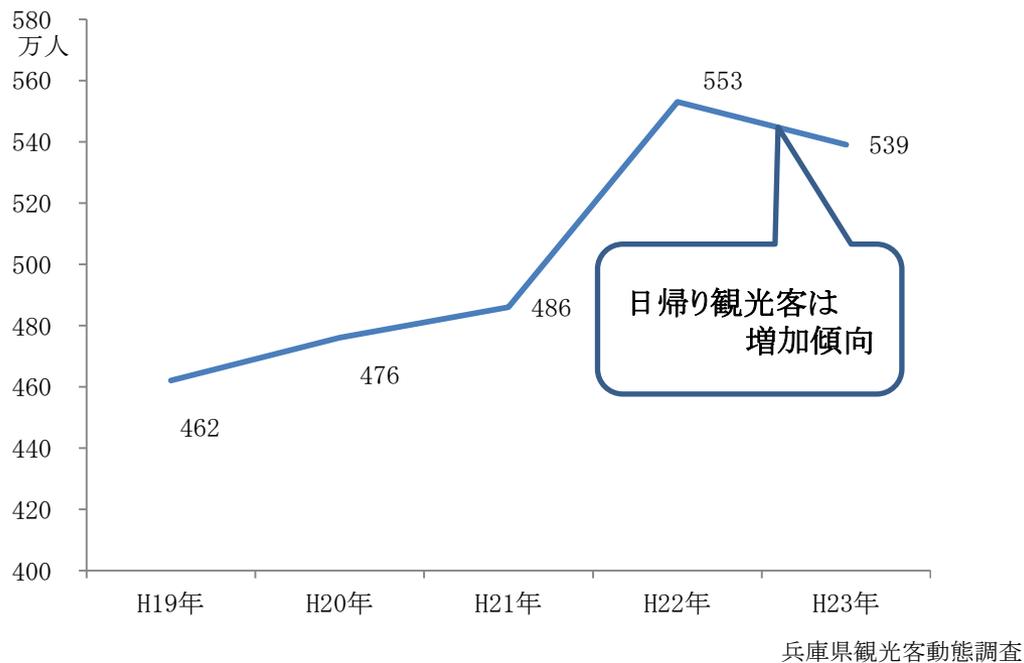
項目		上段:三木市 下段:(兵庫県)
観光入込客数		563万人 (1億2611万人)
主要施設等		ゴルフ場116万人 (甲子園球場378万人)
日帰り客の割合		98.5% (89.8%)
主な 旅行 目的	スポーツ・ レクリエーション	56.9% (26.5%)
	都市型観光 (買物等)	8.0% (12.2%)
	行祭事・イベント	6.8% (20.8%)
	温泉・健康	4.4% (6.5%)
	歴史・文化	3.9% (22.9%)
外国人宿泊数		兵庫県 33万 大阪府289万 京都府165万

課題

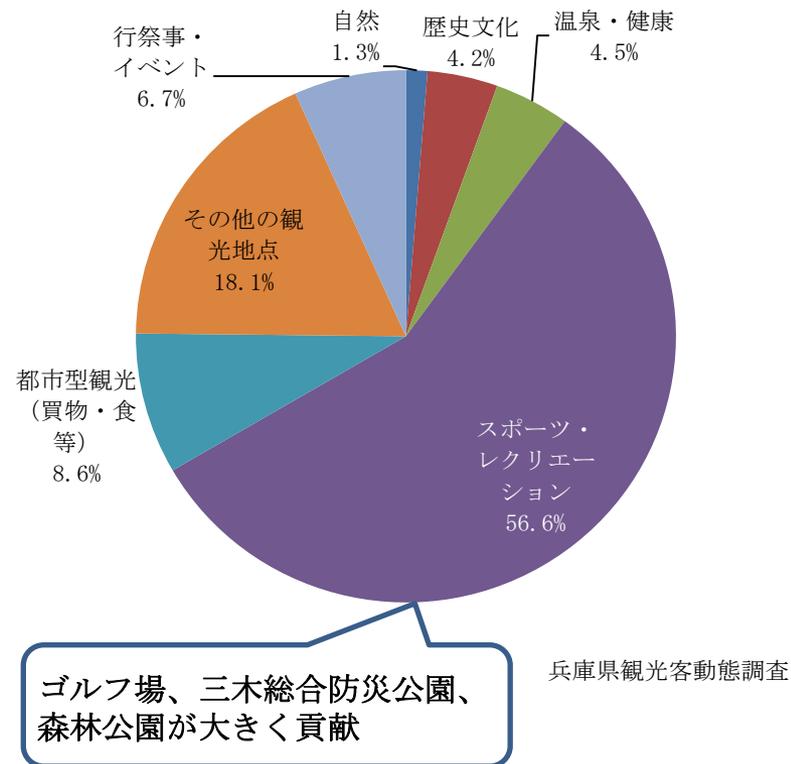
- 人の流れ
ゴルフ場116万人、道の駅みき31万人の客数があるが、これらの観光客の市内への人の循環が図れていない。
- スポーツ
防災公園・ホースランドなど大規模スポーツ施設が観光の活性化につながっていない。
- 宿泊施設
グリーンピア三木、ホースランド以外に観光利用できるような宿泊施設が少なく、宿泊客が少ない。
- 歴史・文化
付城群など史跡指定を受けていながら活用できていない。
- 情報戦略
三木市の観光情報の発信力が弱く、海外からの観光客が少ない。

観光の現状分析

5-1 総入込客数の推移



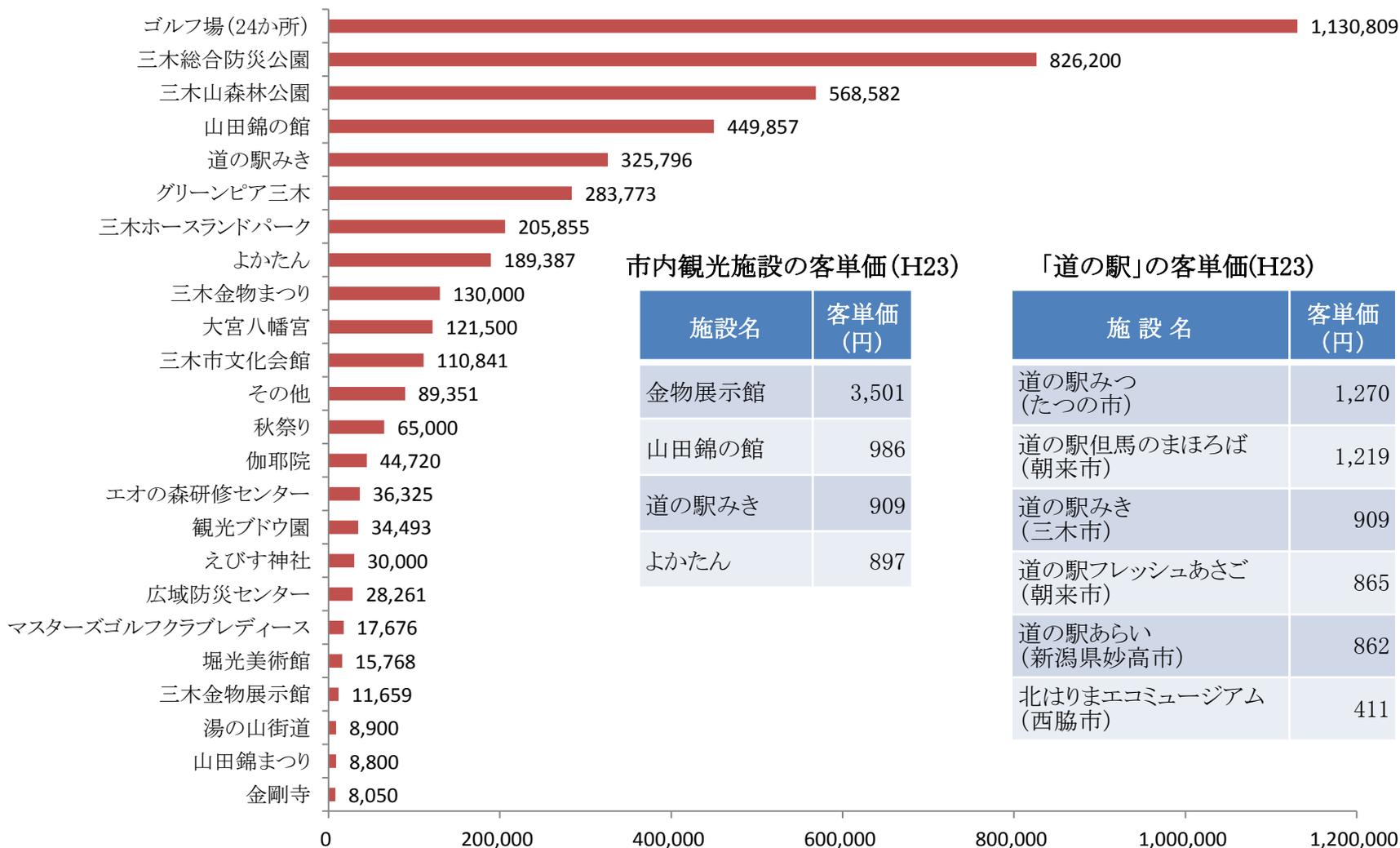
5-2 目的別入込客数 (H23)



5-3 三木市の主な観光施設・イベント

自然	観光ぶどう園(4園)
歴史文化	大宮八幡宮・伽耶院・金剛寺・三木城跡及び付城跡、土塁(国史跡指定)
温泉・健康	よかたん・湯庵
スポーツ・レクリエーション	ゴルフ場(24か所)・グリーンピア三木・三木山森林公園・三木ホースランドパーク・三木総合防災公園
都市型観光(買物・食等)	山田錦の館
その他の観光地点	道の駅みき
行祭事・イベント	三木金物まつり・三木秋まつり

5-4 主要観光施設の入込客数 (平成23年度)



市内観光施設の客単価(H23)

施設名	客単価(円)
金物展示館	3,501
山田錦の館	986
道の駅みき	909
よかたん	897

「道の駅」の客単価(H23)

施設名	客単価(円)
道の駅みつ(たつの市)	1,270
道の駅但馬のまほろば(朝来市)	1,219
道の駅みき(三木市)	909
道の駅フレッシュあさご(朝来市)	865
道の駅あらい(新潟県妙高市)	862
北はりまエコミュージアム(西脇市)	411

(人)